

政治を科学することは可能か



[政治を科学することは可能か_ダウンロード1](#)

著者:河野勝

出版者:中央公論新社

出版时间:2018-4-9

装帧:平装

isbn:9784120050695

安倍内閣の支持率は、2015年の安保法制論争、2017年の森友・加計問題で大きく落ち込んだが、その後回復していく。

これは戦後の歴代内閣の、発足当初が最も高く、徐々に低迷していくというパターンからは大きくはずれる、異例の現象である。

なぜ安倍内閣の支持率は回復するのか。支持率の下落は保守層・リベラル層のどちらの離反によるものなのか。
あるいは一般に自明の事柄として語られる「復興支援の正しさ」の根拠とは何だろうか。災害とはどこまでが「不運」によるもので、どこからが「不正義」によるものだろうか。

テレビなどでは印象論で語られることが多いこういった事象を、国際的に認められる水準の「科学としての政治学」で分析すると何が見えてくるか。これらのメカニズムの解明こそ、現代の日本政治を理解する上で、一つの重要な鍵を提供する、と著者は指摘する。

世論調査に実験的要素を加えた「サーベイ実験」という新しい手法による近年の成果を中心に、さまざまな問題から民主主義の根幹に迫る本書は、「読んで面白い」最新政治学の入門書でもあり、政治学的に言えば「規範理論」と「経験的研究」とを架橋する画期的な試みでもある。

作者紹介:

1962(昭和37)年東京都生まれ。上智大学法学部卒業。イエール大学修士(国際関係論)。スタンフォード大学博士(政治学)。ブリティッシュコロンビア大学助教授、フーバー研究所ナショナルフェロー、青山学院大学助教授を経て、現在、早稲田大学政治経済学部教授。主な著書に『制度』『アクセス国際政治経済論』『なぜ政権交代だったのか――読売・早稲田の共同調査で読みとく日本政治の転換』ほか

目録: 1 もう一つの安倍政権論(なぜ安倍内閣の支持率は復活するのか
新しい安保法制は何を後世に残したのか ほか)
2 実験が解明する政治経済のロジック(日本における「観衆費用」と対外政策論
バンドワゴン行動の政治経済分析―荒井紀一郎氏との共著 ほか)
3
正義についての思考およびサーベイ実験(復興を支援することは、なぜ正しいのか―
金慧氏との共著
他者への支援を動機づける同情と憐れみ―三村憲弘氏との共著)
4 民主主義と自由を考え直すための三つのエッセイ(正しい民主主義とは
なぜ憲法か)
付録 虚の拡散にどう対処するか
・ ・ ・ ・ ・ (收起)

[政治を科学することは可能か_ダウンロード1](#)

标签

日本政治

日本

社会科学

民主政治

新

政治分析

参考书

评论

崇尚定量的大教授，也考虑公平正义的规范性问题了。

河野老师大概写文章真的很厉害。然而就写长篇的著作而言，似乎并不是一个擅长讲长篇故事的好手。可能stanford的教育也主要提倡学生多发论文，少些单著。就算有重要的问题，拆开写，也都可以成为好文章？这种感觉。不过确实体现了河野现实在实验政治学和规范性的理论方面这些年的前进，这也是早稻田这些年来重点改革的果实~此书在日本，在高中生人群里都成了热门读物了，也是不简单~

[政治を科学することは可能か 下载链接1](#)

书评

[政治を科学することは可能か 下载链接1](#)